

北海通 札幌 中場公園

八月三日

親友



紙



三月五日

刊

東京市日本橋區西河岸町六番地

島平  
旅館

平野平四郎

電話本局

特長 八番  
長 一三八一

勝本 啓

神徳の十の白雲の書時の  
一より様文行歌もた

トリンニシヒクルソウエテン

スル

鳥の女可の著草其上

覆報スレ

と昔の産物集ははははは

のふちのふちと書か

と薩付士のふちかき

心配はははははははは

ちうんはははははははは

とのふちの知はははは

白鳥のふち

の生一はははははははは

著草のふち乃本段お福

記のふちのふちのふち

はあはははははははは

奥のふちのふちのふち

先づ草のふちのふちのふち

あははははははははは

いよいよ

奥村、妻由申上向迄

先づ芦花に後付さるる

林氏宅が一息おとす

妻の先生を朝古改書

の苦い付明朝あつ着

お喜他方の方一息而

乞の取費一息復事地

銀行支取人専務漢更

近快談仕、会社設立を

念人も大特選成たる力

の社より申す元迄百俵

ハ生々銀行員招集をりし

ハの天借の予定ありし、

興一四五の崩より風流し

費者熱一割、大したる

医師の注意により、亦

心期仕、する人

亦六のかわせりの朝の海

全人も大特選成たる厚力

の成らば申す元気の百俵

か生か銀行員招請をりし

其の二俵の予定ありし

廻り一四五の崩れより感念を

費者執一別、大したる金

医師の注意をよめ、其の

心期は、その人

亦六のかわり七の朝の海

市を引物おるおまじ

荒るゝ光ふ採録の海

あゝおやとさぬを海

海はらゝあゝ

く月三日朝

海あまら

八田老い

海